

# かしわの木

## 2学期始まりにあたり

園長 片桐 由博

今年は、とても暑い夏休みとなりました。家庭でも様々な経験をしたこと  
思いますし、幼稚園でも作物の生育が早く、急遽収穫を行った学年が多くあ  
りました。心と体も一回り大きくなった子どもたちと新学期のスタートです。  
2学期もどうぞよろしく願いいたします。

夏休み中に東京大学大学院教育学研究科教授の遠藤利彦先生の『幼児期に  
おける アタッチメントと非認知的な心の発達』のお話を聴くことができま  
した。

好奇心を満たす自発的な「遊び」こそ真の「遊び」であり、アタッチメン  
トがもたらす安心感に支えられた子どもは思いきり自発的に遊ぶ中で、自分  
の頭で考え抜く力（＝主体的で深い学び）、他者と共同して学ぶ力（＝対話  
的で深い学び）が実現するとのことです。

本来、人間は自発的に行動したいという欲求をもっています。しかし「何  
歳までに〇〇が出来るようになる」など思い通りに育てようとする、自発  
的な遊びが出来なくなります。他人からの評価や報酬が目的に代わると、そ  
の達成のためにやらされている感覚が生じます。自発的な動機が失われ、や  
らされている感覚が強くなり、自発的に行動しようという本来の欲求が叶わ  
なくなります。そして、次第にやる気を失ってしまいます。子どもに何かを  
教え込めば吸収しますが、「すごいことをさせる」ことは、長期的に見ると  
意味がありません。

私たち大人（教職員や保護者の皆様）は、子どもの後をついて回ったり、  
先回りしてコントロールするのではなく、「安全な避難所」・「安心の基地」  
として見守り、探索を促すことが大切です。

子どもたちが自発的な体験を通して、「気付き、考え、行動する」ことが  
できるよう、今学期も園と家庭とが両輪となって子どもたちの豊かな生活を  
支えていきたいと思えます。

年度の予定表にもあるように、10月14日（土）は北海道私立幼稚園教育研  
究大会道南ブロック大会において本園全クラスで保育公開を行います。当日  
は第2土曜日ではありますが、子どもたちは登園日となりますので、ご理解  
・ご協力をお願いいたします。